「はやぶさ2」カプセル帰還

太陽系誕生の起源を探るため、小惑星探査機「はやぶさ2」が地球を旅立ってから6年。小惑星「リュウグウ」から採取した地下物質が入ったカプセルがはやぶさ2から切り離され、12月6日に無事地球に帰還しました。

リュウグウのサンプル採取時に使用された衝突装置「インパクタ」の容器加工を手掛けた諏訪町の㈱石川製作所とその子会社である㈱タマテックでは、カプセル帰還の報せを受け、社員や関係者が喜びに沸きました。

石川澄伸社長は「各方面からお祝いの電話やメールをたくさんいただきました。カプセルが帰還し、これでプロジェクトが一区切りしたんだなとほっとしています。プロジェクトに参加できたことを誇りに思います」と喜びを語りました。

タマテックの吉田武副社長は「町工場が国の大きなミッションに参加できたことで、皆さんに夢を届けることができたなら嬉しいです。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、我々のような製造業も大きな打撃を受けていますが、明るい話題になったと思います」と話しました。

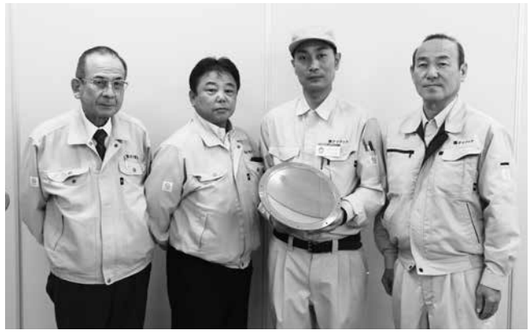
インパクタの容器加工に直接的に携わった石川製作所の石井勇寿製造部第4製造課長は「報せを聞くまでは心配で眠れませんでした。不安の中で立ち上げてきた製品が形になり、地球に帰還するカプセルの火球を見たとき、今までの苦労が報われたと感じました。ものづくりを通して地域社会に貢献できたのでは」と試作からの約11年を振り返りました。

両社では、今回のインパクタの容器やジェットエンジンの部品といった航空宇宙部門の製品加工のほか、内視鏡やカメラの部品、光通信のコネクタ、測量機器など、私たちの生活に密接に関わる様々な製品を試作・製造しており、現在は将来主流になるとみられる水素自動車のエンジンの部品製造も手掛けています。

石川社長は「私たちが作る製品は外側からは見えなくても、内部に組み込まれて重要な働きをしているというものが多くあります。自ら試作・開発したものが完成品となって出来上がってきた時の達成感は何物にも代えがたいものがあります。今回のはやぶさ2プロジェクトを機に、製造業に携わる人が増えれば何よりです」と話していました。

㈱石川製作所・㈱タマテック（諏訪町）

惑星の物質採取に貢献



（左から）須藤営業推進役、石川社長、石井課長、吉田副社長

衝突装置「インパクタ」の容器の試作品とレプリカ

GAP認証取得で快挙

7品目追加し単独日本一に

岩瀬農業高等学校

岩瀬農業高校は11月、農産物の安全性などの国際認証であるグローバルGAP（GGAP）について、新たに7品目で認証を取得して合計18品目となり、高校としての認証取得数が単独で日本一となりました。また、国内のGAP認証であるJGAPにおいても、国内初となる畜産3品目での同時認証取得を達成しました。

今回新たにGGAP認証を取得したのは、エダマメ、ダイズ、ラッカセイ、アズキ、トマト、ブドウ、ルッコラの7品目で、JGAPでは乳用牛・生乳、肉用牛、採卵鶏・鶏卵の3品目で認証を取得しました。

同校で12月17日㈭に行われた会見では、各部門の担当生徒がGAP認証取得までの苦労や努力した点などを発表しました。果樹担当の根本亘さん（園芸科学科3年）は「48種類ある農薬の性質を把握しなければならず、調合に苦労しました」と話し、野菜担当の和田周馬さん（同3年）は「夏の暑い時期でも、温室の中に異物が混入しないよう定められた服装で作業をするのが大変でした。GAP認証を取得することができ、苦労が報われました」と達成感をにじませました。

岩瀬農業高校のGAP認証取得品目	
GGAP（18品目）	コメ、キュウリ、リンゴ、レタス、ミズナ、バジル、サツマイモ、ナシ、ジャガイモ、メロン、ダイコン、エダマメ、ダイズ、ラッカセイ、アズキ、トマト、ブドウ、ルッコラ
JGAP（3品目）	乳用牛・生乳、肉用牛、採卵鶏・鶏卵

同校では、風評被害が残る現状を打破し、福島の食の安全性を伝えるため、平成30年からGGAPの取得に取り組み始め、同年11月には県内の高校としては初めてのGGAP認証を6品目で取得しました。

GGAP認証取得により東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準を満たすこととなった同校は昨年、大会期間中のホストタウン・ハウスの企画やメニュー開発を担当する東京の㈱八芳園と産学連携協定を締結。今年5月には同校産のコシヒカリを使用した甘酒が八芳園から発売され、町のふるさと納税の返礼品にも選ばれました。

同校ではGGAP日本一の強みを生かして、GAP農産物の海外輸出について学習しており、今年度は生物生産科とアグリビジネス科の生徒によるプロジェクトチームが郡山市と連携し、「岩農米」を市場調査目的でベトナムに持ち込むなど、精力的にPR活動に取り組んでいます。